



校長室だより

第 1 6 号
(通算第 6 9 号)
令和 4 年 7 月 1 日 (金)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

「聴く」について考える (キーワードその3)

7月に入りました。今年は例年にない14日間という短い梅雨の期間でした。子供たちは、この暑さにより外で遊べないため、水泳の時間を満喫しています。6年生が水泳学習の最初の時間に、【河童の水】、【安全の水】、【感謝の水】をプールに投入してくれました。1年生は初めての水泳学習に真剣に取り組んでいます。



さて、大切にしたいキーワードの3つ目は「聴く」です。私は、宮城県図書館に勤務していたことがあります。そこで感じたことは、人は本来「学びたい」という欲求があるということです。子供は「勉強キライ」と口にすることがあります。でも本当は「分かりたいな」「どうしてかな?」「もっと知りたいな」という気持ちがあるはず。「知る」ってわくわくすることだと思うのです。

学校で勉強することで、自分と違う価値観の友達と出会ったり、教えてもらったりして、「そうか。分かった!」「なるほど!」と思えることが大人以上に多いのが子供です。子供は先生や友達から教えてもらうことの方が、大人に比べると断トツに多く、話を「聴く」ことがとても大切であると私は思っています。

本校の子供たちは、しっかりと話を「聞く」ことはできています。聞こえてはいるけれども、理解しようとしているかとなると、少し弱いのではないかと感じています。

「聴く」とは、相手の言いたいことを理解しようとするということです。もう少し詳しく言うと、相手の情緒的要素や言葉の意味を理解しようとするということです。話している人の気持ちを考え、共感したり、ちょっと違うぞと思ったりしながら、「相手の言っていることをもっとよく知りたいな」と思うことです。

例えばテレビを見ている時に、自分にあまり必要のない情報は、「聞いて」います。しかし、自分が興味をもったり、関心があったりすることになると、その情報は「聴いている」ことになります。

人の話をただ「聞き流す」ことは、とてももったいないことだと思います。自分と価値観が違ういろいろな人の話を「聴く」ことによって、新しい発見をしたり、違う考えから、さらに調べてみようと思ったりすることができますね。学力向上の基本は「聴く」ことだ、と私は声を大にして言いたい。新しい時代を生き抜く子供たちにとって、「聴いて」「発信する」力が求められています。

相手の話を「聴く」ことで、しっかり受け止め、相手の話に対して、賛成なり反対なり自分の意見を発信する。それを相手に「聴いてもらう」。こうやって学び続ける子供を育てていきたいと思っています。